

令和 7 年度 自己評価報告書

令和 7 年度の教育活動について、学校評価（教員自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、地域アンケート）の結果を踏まえ、各担当で分科会を実施し成果と課題についてまとめました。全体会で各分科会での成果と課題を共有し、そこから、令和 8 年度の各分掌の改善の手だてを考えました。この方針に基づいて教育活動を進めていきます。

1 研究推進部

(1) 令和 7 年度の成果

- 「2.先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」
(児童 2.04)
- 「4. 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」(児童 2.10 教師 1.95)
→児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりが、児童や保護者にも伝わっていて大きな成果として表れている。

(2) 令和 7 年度の課題（学校評価から）

- 「わたしは、一人一台のタブレット端末等の ICT 機器を活用し、児童の学ぶ意欲を向上させ、基礎基本の定着を図っている。」(教師 0.9 児童 0.74)
→教師は学校公開で活用したことで保護者の数値が上がっているが、教師は、数値が下がっている。意欲の向上になっているが、基礎基本の定着には活用できていないのではないかな。どのようにしたら基礎基本の定着を図ることができるのか検討が必要。例えば、ロイロノートで作成したワークシートを「資料箱」等に保存しておき、質の高い学習方法を共有する。そのような教材があることを周知する。
- 「わたしは、課題解決のためにタブレットを効果的に活用した指導をしている。」(児童 0.9)
- 「授業で、自分の考えを話したり、書いたりして伝えようとしている。」
(児童 1.35 教師と児童どちらも下がった)
→発表する場を用意するだけでなく、「書いてよかった」「伝えてよかったな」と感じられる場面をつくるようにする。そのために、教師の価値付けや相互評価を積極的に取り入れ、達成感を味わえるようにする。

(3) 改善の手だて

- ・タブレットの活用について 基礎基本の定着 3～6 年 1～2 年は意欲の向上
→基礎基本の定着を図ることができるのか検討が必要。例えば、ロイロノートで作成したワークシートを「資料箱」等に保存しておき、質の高い学習方法を共有する。そのような教材があることを周知する。
- ・「書いてよかった」「伝えてよかったな」と感じられる場面をつくれるようにする。教師の価値づけ
→「書いてよかった」「伝えてよかったな」と感じられる場面をつくれるようにする。そのために、教師の価値づけや相互評価を積極的に取り入れ、達成感を味わえるようにする。

2 生活指導部

(1) 令和 7 年度の成果

- 全体的に上がっている、教員評価のみ少し down
→談話ルームなど廊下に出ている児童、飛び出し児童が減った。
保護者の数値が上がったことにつながっているのではないかな。

→組織的な対応、情報共有がよかったか？

○「私は、学校のきまりを守って、行動している」児 1.49

→「人も大事に、自分も大事に」を生活指導の軸に置きたい。

→談話ルームなど廊下に出ている児童が減った。

○代沢しぐさ・・・現状維持。名前を変えないメリットもあり、子どもになじんでいる。

→「人も大事に、自分も大事に」を生活指導の軸に置きたい。

(2) 令和7年度の課題（学校評価から）

●「わたしは、児童の問題行動に対してその背景を理解して指導している」教 1.27

→すまいるでやっていることが、こちらにあまり伝わっていない。

どのような指導をしているのか、公開期間が欲しい。

もう少し交流がほしい。記録をもらうだけでもいい。

→巡回心理士など、専門委に見てもらった情報を全体で共有すべきでは？

(3) 改善の手立て

○すまいるのこと、巡回心理士の情報をもっと共有すべきではないか。

全体的に児童へのかかわり方を学校全体でオープンにできるとよい。

巡回心理士の個人情報など校長室保管でもいいので、もう少し開示できるようになるとよい。

○廊下歩行について

→廊下歩行強化週間のようなものをつくる

○学校への対応が多岐にわたり過ぎる。

→学校でできる対応、できない対応を明確に伝える。

学校の対応の総意として伝えられるよう、組織的に対応する。複数で対応する。

(できること、できないことを明確に伝えることも大事。)

→SC を効果的に活用する。

○長欠児童（不登校調査）調査は担任が入れて頂けるとありがたい

→どこことつながっているか、担任の方が分かる。

3 特別活動部

(1) 令和7年度の成果

○3 学校行事について 概ね高数値（教員は少し低下）

コロナでできなかった時期に比べ、児童・保護者は充実感があるのではないか。

昔から比べると簡素化し、教員の数値の低下へつながったのではないか。

保護者会等様々な場面で、行事当日までの児童の頑張りの様子等を伝えていることが保護者への理解へつながっているのではないか。→継続

実行委員等、児童の主体性を大切にする活動が充実感へつながっている。

○4 特別活動 概ね高数値

・地域・保護者の方が学校行事にも多く来てくださっている。普段見えないクラブ・委員会・せせらぎ班活動等も、HP や学校評価委員会での報告で、充実さが伝わっているのではないか。

(2) 令和7年度の課題

●5 キャリア教育 | 「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」

児童・保護者・教員ともに1以下

日頃の授業や学校生活と、キャリア教育とのつながりの意識が低い。

そもそも、親世代が「キャリア教育」を知らず自分が経験していないことから、キャリア教育そのものがわからないことに数値をつけられないのではないかな。

⇒保護者に向けても「キャリア教育とは？」を知る機会が必要と考える。4月の全体保護者会などで、周知するなどの方法はどうか。

●4 特別活動 2 「せせらぎ班を通して人との関わり合いを広げることができるようにしている」教員 1.27 1 を超えるが、昨年度よりは低下

6年生の活動が充実しており、教員自身が動く部分が少なくなっている。

関わりを「広げる」ところまでにはっていないと感じるのではないかな。

設問とねらいにずれがあるのでは？

→「異学年の友達と関わり合うことができた」「関われるようにしている」くらいでよいのではないかな。

(3) 改善の手だて

○児童への取り組み

・「この学習は自分の生き方や将来につながっているよ」と具体的な言葉で示す

・キャリアパスポートの書式を工夫し、児童が目標を意識する機会を増やす

→児童が月に1回自己評価(◎、○、△)出来るようにし意識付けする。

保護者・教員の欄を年度末のみにする

○保護者への取り組み

・保護者向けの年間指導計画にキャリア教育に関わる学習を明記する。(☆等の印)

・学習やキャリアパスポート(なりたい自分像)を通してキャリア教育を行っていること、新しい学習ではなく、今までに行っていることがキャリア教育へ関連づいていることを周知する。

⇒年度初めの保護者会で伝える(教員も親も理解へつながる)

・ゲストティーチャーの活用、年度末に実施していることを周知・告知

(様々な学年で時期が重なることがあれば、「キャリア教育週間」など目立つようにするのもあり)

・学校だよりの学年の欄に、「キャリア教育」に関わる授業について報告を入れるなど、具体的に保護者へ伝える工夫をする。

○教員の理解、意識の向上

⇒年間指導計画(各教科・学級活動)を活用し、文字化・可視化、学年で共有する。

4 ICT推進部

(1) 令和7年度の成果

○「わたしは、授業で課題を解決するためにタブレットを効果的に活用している。」児童 1.76

→概ね「効果的に利用している」児童が多い。

○「本校では、HPやメールなどで、保護者に情報を提供している。」保(1.55)・地(1.71)大幅UP

→成果あり。紙面共有からメール配信にしたことによって、保護者の目につきやすくなった。

→教員は下がっているものの、全般的に情報の公開の満足度は高い。

よって、今年度と同じように継続させたい。

(2) 令和7年度の課題

- 「わたしはタブレットの使い方のルールを守っている。」児 1.55、保 0.79
→家庭では野放し状態なのも原因か。家庭での使い方指導が難しい。
- 週案もC4+hで統一の可能性も？→確認しやすい

(3) 改善の手だて

- 4月に保護者会で説明するものの、「代沢小」としてのルールを明確化し、説明徹底する。
→子供と教員のゴールイメージを共有する。
- 学習指導、タブレットのルールについて（全）
→教育計画「情報共有ルール」の扱い方を確認、徹底する。
→C4+hの活用を広げる、タブレットの効率化を模索していきたい。
→教科担任制になるなら、乱立する可能性がある。
※基本的にロイロノートで担任が作り、教科担任の先生を入れる方向で、どうか。

5 学力向上部

(1) 令和7年度の成果

- 6-1「先生たちはていねいに指導してくれる。」児童 1.68
「本校はていねいに指導している。」保護者 1.74
→各学年専科で情報を共有し、日々授業改善を図ることで児童にとって楽しい授業が行えている。その楽しさが、児童の意欲を引き立て確かな理解へとつながり、児童にとっての「ていねいな指導」につながっているのでは。
- 7-1「学校生活は楽しい」児童 1.8
→教員の数値は低いが、児童と地域の数値が高いことを考えると、よい手だてをうてているのではないか。

(2) 令和7年度の課題

- 6-2「先生たちに相談できる」児童 0.92
→保護者・教員のポイントは反して高い。学年や専科で協力し、チームで対応はできている。親への説明責任もはたしている。誠実な対応はできているといえる。児童の友人関係の悩みについては、アンケート調査等をもとに、対応できている。すると、児童が悩みに感じていることは、学校外のことか？（受験勉強など）←これは学校が丁寧にききとることか。アンケートの文言の修正が必要？
- 7-2「学校が好き」児童 1.23
→個別支援の多い児童が増えた印象。数値は下がるであろう。自由に遊べる時間を欲している児童が減っているか。
- 7-4「学び舎による幼小中の連携や交流活動が行われている」0.84 保護者
「学び舎の取組について、幼小中の連携を意識した指導をしている。」0.80 教員
→保護者の方々の認識が低い。
→教員にとっては、「どんな指導か」ということを具体的に捉えにくくなっている。

(3) 改善の手だて

6-2 「先生たちに相談できる。」 児 0.92

□ 「笑顔で」「ゆとりをもって」子どもに接する。

「先生忙しそうだから…」といった印象が相談しにくさにつながっている。

7-2 「学校が好き」

□ 「友達と遊ぶのは楽しい」けれど「勉強は好きじゃない」となると数値は下がることが考えられる。

教員の役割として、「学ぶことの楽しさを教える」ということを大切にしたい。

7-4 「学び舎としての活動」について。交流活動をしている。(保 0.19→0.84)

□HP 等で周知していく。

教員が理解を深め、意識した指導を行う。(例) 学び舎マスコットを活用した指導

(あいさつ富士太郎など)

6 体育的行事部

(1) 令和7年度の成果

○6-5 児童 1.55

「ランランタイム (ラジオ体操、持久走、長縄跳び)、や体育の学習ですすんで運動に取り組んでいる。」

→低学年から継続して行っていることで、児童はすすんで取り組む習慣ができています。今の時程だとランランタイム後に余裕があり、落ち着いた生活を遅れる利点がある。ランランタイムの種目、時期は来年度も今年度同様とする。

○6-6 児童 1.61

「休み時間にすすんで体を動かしている」

→児童は貴重な外遊びの時間を楽しみにしている。

(2) 令和7年度の課題

●6-5 保護者 1.14

「子どもは、朝の運動や体育学習を通して運動に親しんでいる」 1.14

→ランランタイムの取り組みについて、保護者のポイントはやや上がっているが、さらに高められるのではないかと。

(3) 改善の手だて

●6-5 保護者 1.14

・さらに数値を高めるために、保護者の目にする機会を増やすために、HP に頻りに掲載したり、掲示板等に活動の様子を掲示したりするのはどうか。

●6-6 教職員 1.18

・数値は低くないが、高めるために休み時間に外で遊ぶことを奨励していく。